

Modernism and metal work in 1920's and 1930's from the collection of Takamatsu City Museum of Art II

高松市美術館コレクション展Ⅱ

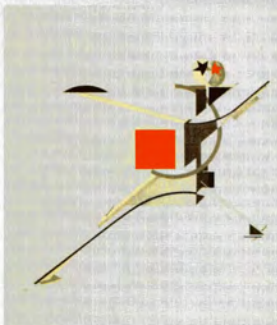
昭和モダニズムの金工家たち

2006年 1月20日(金) — 2月5日(日)

- 休館日 月曜日
- 開館時間 火・金曜日 午前9時30分～午後7時 / 土・日曜日 午前9時30分～午後5時 入室はいずれも閉館30分前まで
- 入場料 一般600円(480円) 高大生400円(320円) 小中生200円(160円)
- (一)内は前売りおよび団体20名様以上の料金 前売りは美術館1階受付にて開催前日まで販売
- 65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料
- 会期中の土曜日は小・中・高生入場無料

主催 高松市美術館

同時開催
20世紀—身体をめぐる旅



エル・リツキー「太陽の征服 未来人」1923年

北原千鹿「花燭台」1926年

Takamatsu City Museum of Art

高松市美術館

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4

Tel.087-823-1711

ホームページ <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/647.html>



北原千鹿「鉄香爐」1930年



北原千鹿「鹿文金彩花瓶」1936年（展示期間：1月20日～29日）



北原千鹿「双魚置物」1951年



大須賀喬「黄銅花器」1930年



鶴幸太郎「喫煙具」1930年

工芸において作り手が自らの個性に目覚め、作家意識をもって制作にのぞむようになったのは、大正時代に入る頃からのことでした。そして、この動きをより影響力ある運動として展開したのは、同時代の文学や美術に影響を受け作家意識が目覚めた当時の若い工芸家たちでした。

欧米留学から帰国した津田信夫からフランスのアル・デコなど新しい動向を伝えられた若い金工作家たちは、大正15（1926）年に工芸団体「無型」を結成します。高村豊周や高松出身の北原千鹿を中心とするこの革新的なグループは、伝統の旧弊を打破し新時代の工芸を目指して帝展への工芸部門開設運動を推進する一方、時代に即した新しい表現をうたい、直線や円などアル・デコの幾何学的形態を作品に取り入れました。

昭和2（1927）年、第8回帝展に工芸家の悲願であった工芸部が新設されると、高村豊周や北原千鹿は特選を受賞し華々しい活動を展開します。また同年、北原千鹿が中心となり同郷の大須賀喬、鴨政雄、村越道守、山脇洋二ら12名で結成された「工人社」は、その斬新な作品により「最も新感覚の団体」といわれ、昭和15（1940）年に解散するまで戦前の工芸界に多大な影響を及ぼしました。

このたびの展示では、大正末から昭和初期にかけて展開した「昭和モダニズム」の系譜を、北原千鹿と「無型」、「工人社」のメンバーら9作家の金工作品60点によりご紹介いたします。（会期中一部作品を展示替します。前期1月20日～29日、後期1月31日～2月5日）

同時開催：20世紀一身体をめぐる旅

「身体」をテーマに20世紀美術を通観します。ピカソ、クレー、デュシャン、エルンスト、ポロック、ジョーンズ、ウォーホル、ハーストラ、24作家82点の版画作品を展示。

Modernism and metal work in 1920's and 1930's from the collection of Takamatsu City Museum of Art II

高松市美術館コレクション展 II

昭和モダニズムの金工家たち



鴨政雄「花瓶」1929年



山脇洋二「煙草入れ」1927年

ギャラリートーク（観覧券が必要）

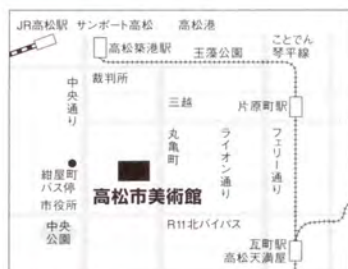
- 当館学芸員によるギャラリートーク
1月21日（土）午後2時より2階展示室にて
- 美術館ボランティアCivi（シヴィ）によるギャラリートーク
会期中の日曜日 午前11時～午後2時～
1日2回 2階展示室にて

常設展のお知らせ

- 第5期常設展
1月21日（土）～3月26日（日）
展示室1：ヨーロッパの日本人画家たち 展示室2：きんぎょ 蒔繪の美
※特別展のチケットでご覧いただけます。

次回催物のお知らせ

- 蒔繪 磯井正美展
2月24日（金）～3月26日（日）



交通のご案内

JR四国～JR高松駅下車、南へ徒歩15分
 ことでん～瓦町駅・片原町駅下車、徒歩10分
 バス路線～（ショッピング・レインボー循環バス）紺屋町バス停下車、徒歩3分
 駐 車 場～美術館地下に公営駐車場（有料、乗用車144台収容）

写真：高橋 章（リシツキーを除く）